

令和4年度11月 定例教育委員会会議録

令和4年11月15日（火）

山梨市教育委員会

令和4年度11月 定例教育委員会 議事録

令和4年11月15日（火）午前10時から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録署名
- 4 協議事項
 - (1) 学校訪問（全体）を終えて
 - (2) その他
- 5 報告事項
- 6 連絡事項
- 7 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	窪田 新治
教育委員	武井 茂
教育委員	矢野 眞由美
教育委員	天野 有紀

○事務局職員出席者

学校教育課長	磯村 賢一
生涯学習課長	角田 弘樹
学校教育課 指導主事	小串 吾郎
学校教育課 学校教育担当リーダー	星野 正裕
学校教育課 学校総務担当リーダー	小池 かおり
生涯学習課 生涯学習担当リーダー	根津 道仁
学校教育課 学校総務担当（議事録作成者）	小田切 咲紀

4 協議事項の内容

教育長

議事に入る。

(1) 学校訪問について全体を終えて、意見を伺いたい。

磯村課長

今年度は日程を3日間に短縮し各学校の課題把握を中心に行った。初めに学校側から意見を伺い、次に授業を視察し、最後に意見交換という構成で行った。

教育長

校長会でも学校訪問が形式的にならないようにと伝えた。各校の課題とそれに対応するクラスの見学、最後にまとめという形を基本として、全クラスを漫然と回るようなことはやめていく。

天野委員

先生方が学校訪問に備えてスーツを着て準備をしている姿を見て、もっとありのままの子どもたちや先生の様子を見たいと思った。先生方には普段通りの服装でかまわないと伝えてほしい。学校訪問のために教室の整理や清掃をしたという話を聞き、それでは課題解決に向かないと思った。抜き打ちはできないだろうが、ありのままの様子を見て皆で課題を解決していけたらと思う。学校訪問の方法がよりよく変わっていったら良い。

矢野委員

昨年までは学力テストや学園祭の話で懇談が終わる場合もあったが、今回は事前に聞き取り内容があったのでピンポイントで話すことができ良かった。学校の抱える課題について、現状でどんな対策を取っており、市教委にどんな要望があるのか、踏み込んだ内容を聞くことで解決につながると感じた。

窪田職務代理

限られた時間で学校長から説明してもらうため、さらに内容を絞って話してほしい。例えば、校内研究の話だとその場限りで終わってしまう。課題についてもっと聞かせてほしい。

磯村課長

学校訪問の目的は課題を把握し学校を良くすることだと伝え、普段通りの様子を見せてもらうようにする。

武井委員

昨年と比べ各学校で ICT の活用が見られて良かった。支援学級が増え全ての学校で課題となっているが、学校規模によって支援員を分配するのではなく、多動など子どもの実態に合わせた数の配置を考えたほうがよい。また、課題の説明があったが、学校ではどのように取り組んでどういうふうにしていこうとしているのか、もっと知りたかった。今回の学校訪問で挙げられた課題がどうなったかを、年度末に教育委員会に報告をしてもらえればこの訪問の意義があるだろう。

窪田職務代理

できるだけ新採用の先生の授業を見学させてほしい。

教育長

少人数学級の導入で3クラスになったが、先生の力量のバランスを取るのが難しく、課題となっている場面もあった。来年度に向けて、工夫を考えている。

教育長

次に (2) その他、何かあるか。

武井委員

部活動の地域移行について、本市では地域スポーツ団体とどのように連携していくつもりか。また、不登校が全国的に増えているが、今年度の推移と前年度比較のデータを見せてほしい。

教育長

地域移行について、本市は部活動の全員加入や生徒指導の面があるので、無理に地域移行をすると学校側の負担が逆に増えると考えている。無理して急いだ対応はしないが、準備のため、施設や指導者との調整をするコーディネーターの配置を考えている。また現在、指導主事が各学校の部活動の種類と土日の活動場所・指導者について調査を行っている。次回結果を報告したい。

武井委員

多忙化に対して学校の働き方改革の体制は前進してきているので、部活動の地域移行が負担にならないようにしてほしい。教員採用試験受験者数の減少は、教員の働き方も要因だと思うので、本市でも取り組みを進めてほしい。

教育長

若い教員と長年部活動指導をしてきた教員の間で意識差があるが、各学校には準備を進めているので心配しないようにと伝えている。まずは調査結果を見て、地域移行に対する問題は場所が足りないのか、人が足りないのかなど探っていきたい。

窪田職務代理

県内では全入（全員加入）をしていない地域もある。生徒指導などいろいろな面で効果はあると思うが、不登校の原因の一つになっているとも考えられる。子どもたちや保護者が全入にどういう意識を持っているのか知りたい。例えば、全入より希望制がいいと考えている子どもや保護者が多ければ、変えていくことも考えなければならない。何かの折に三校で調査するなどして子どもたちの意向を知っておいたほうがいい。全入が当たり前という意識は良くない。

教育長

地域移行を先行している会津若松市の状況を聞く機会があったが、お金がかかると部活動に行かなくてもいいと考える保護者が多く、加入率は半分くらいに減ったそうだ。またスポーツ庁の説明では、根幹は働き方改革であり、平日と別の活動をするなど多様性を大事にしたいという話だった。本市で考えると、南北中は近くにグラウンドがあるが笛川中は活動場所が遠くなった場合どうするかなど、課題を精査していく。

不登校について、事務局から説明をお願いします。

小串指導主事 資料に基づき説明

天野委員

過去に不登校だったが現在は学校に通っている子どもはこの数に含まれるのか。

小串指導主事

含まれる。この調査は年間 30 日以上欠席した子どもの累積数を示したもので現在のどのような状況かは表していない。

武井委員

本市では不登校の取り組みを強化しているが、日数ではなく現在の状況の数値で勝負しないといけない。実質の不登校者数を校長がどれだけ把握しているか、取り組んだ成果を知りたい。実際の状況や毎月の分析など経過のわかる資料が欲しい。

教育長

各個人の状況・経過がわかるようなデータを考えたい。

天野委員

学校では放課後に顔を見せに来たり教室に行けなくても敷地内に入ったりした場合は出席扱いにしていると聞く。子どもが一步でも足を向けることは大切だが、学校側で登校さえすればよいという考え方になってしまうと良くない。学校に行けない子や少ししか登校できなかった子が、その後どういう環境でどう過ごしている

か、その子自身の過ごし方を観察しなければ本当の不登校の原因は掴めないと思う。何が問題か、どんな刺激があれば学校に行けるのかを大変だとは思いますが考えてほしい。

また、不登校の子どもの居場所について、現在支給されているタブレットは学校・家庭・Withに使用場所が限定されており、民間のフリースクール等では使えない。学校にも家庭にもいられずフリースクールに来ている子どもたちがオンライン授業なら参加できると意欲を持った時に使えないので、対応してもらえればと思う。

磯村課長

市の貸与物品のため学校・家庭・市教育支援センターのみの使用としている。

天野委員

今後使用範囲を広げる予定はあるか。保護者から切実な要望が出ている。

教育長

故障の際の保険適用などを考える必要がある。

学校教育課学校管理担当 小泉リーダー

今は持ち帰りもあまり行われておらず、学校の体制が整って活用が広がっていく中で考えていきたい。

磯村課長

オンライン授業を受けた場合、学校長が出席扱いにするかという問題があるため、慎重に進めたい。

天野委員

他市が先行して進んでいる中で、他自治体の子どもはできて山梨市の子どもはできないといった差が生まれないようにしてほしい。

教育長

その他、事務局から何かあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了